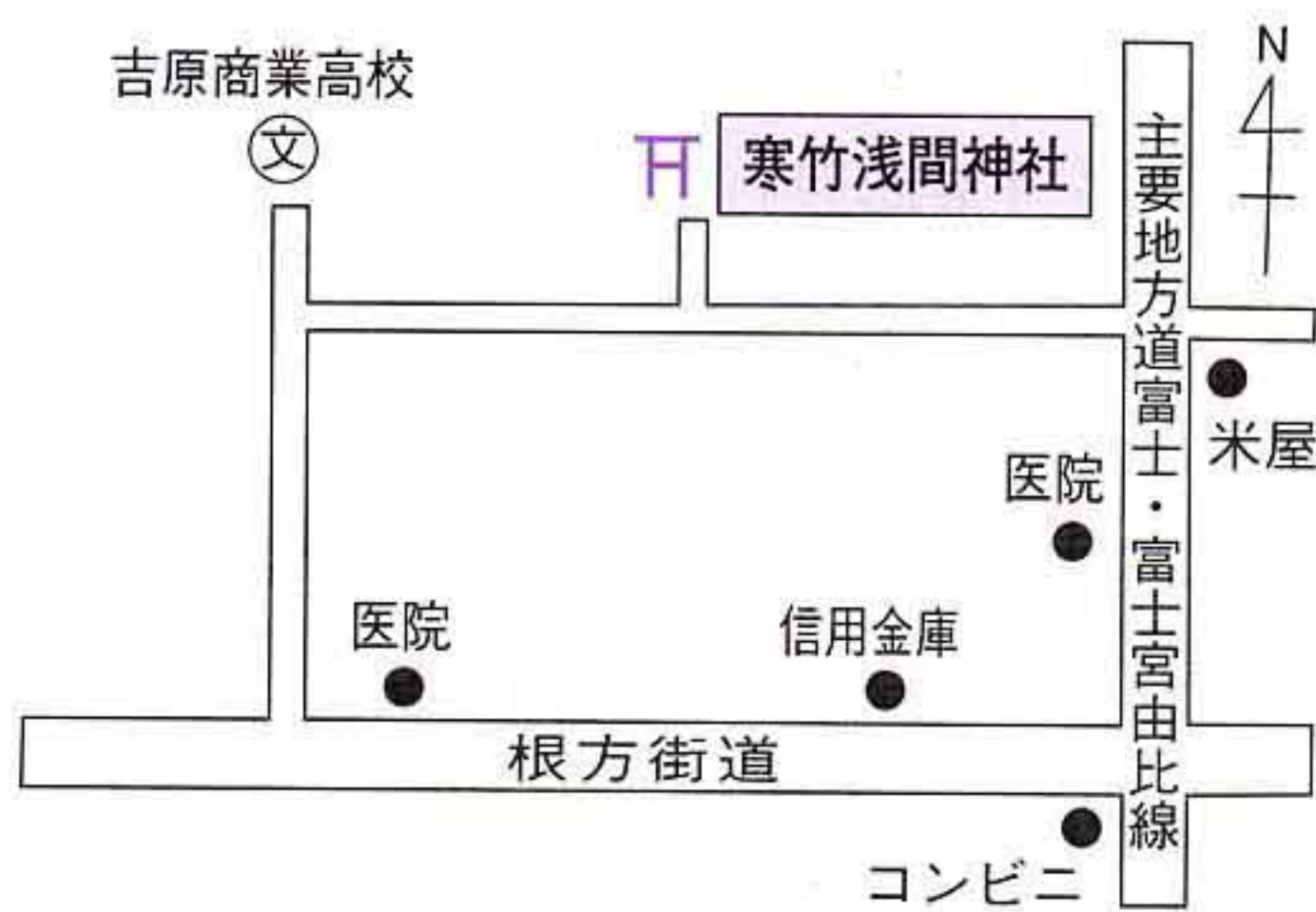


富士岡神楽



第16回



寒竹浅間神社秋まつり 10月12日(土)

富士岡神楽の始まりは古く、今からおよそ三百年前。富士岡一区の氏神様である寒竹浅間神社に氏子の無病息災、家内安全や五穀豊穡を祈り、神楽の舞を奉納してきました。

神楽の舞は、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきましたが、戦中の混乱で一時途絶えてしまいました。しかし、昭和四十九年、戦前神楽の舞に携わっていた人たちから、復活を願う声が広がり、鶴無ヶ淵神明宮神楽保存会の協力を得て、青年たちが復活させました。

舞の種類は「下りの葉」「狂いの舞」「鎌倉」の三つ。獅子、篠笛、太鼓、鉦、ひよっとこを用いて行われます。現在では市内でも数少ない歴史ある伝統芸能の一つになっています。

会員は約十五人で、ほとんどが五十代。今では全員が集まることは難しくなっています。しかし、富士岡神楽を伝承していくと活動が続いています。

舞を披露する場合は、十月十六日の前の土曜日に行う寒竹浅間神社秋まつり(お日待ち)と姫名の里まつりです。そのほかにも吉原東中から学校行事に招待され、体育祭や豆まき大会なども発表の場となっています。



富士岡神楽保存会
本多 進 (富士岡)

県からのスクールフロントという指定事業がきっかけとなり、平成八年から吉原東中の生徒に富士岡神楽を教えています。

最初、子どもたちはどこかそっけなく、私たちは教え方に悩み、戸惑いがありました。が、今では自然と子どもたちに受け入れられています。

神楽を発表する日が近くなると、寒竹浅間神社の神楽殿で練習を行います。子どもたちは活動するうちにおもしろさを感じてくるようです。

子どもたちに教え始めて七周年目になります。歴史の重みがある富士岡神楽を伝えることができ、とてもうれしいですね。今は、神楽の舞を覚えた子どもたちが社会人となって地元に戻り、保存会のメンバーとして神楽を継承してくれることを期待し、楽しみにしています。

こちら編集室

ことしのゴールデンウィークに念願のマウンテンバイクを買いました。「これで私も自転車通勤だ」と大張り切り。車通勤では流れ過ぎてしまう景色を楽しんだり、その日の予定や家族のことなどを考えてみたりと

なかなか有意義な時間となっています。しかし、刺すように暑い日差しに勝てず、夏の間、自転車通勤は休憩。秋風が心地よくなってきたこの季節。そろそろ復活して、季節を感じてみようかな。

人口 242,288人 (前月比+48)
男 120,618人 (+16)
女 121,670人 (+32)
世帯 83,742世帯 (+5) 9月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123(代) FAX51-1456

